

鳥インフルエンザの発生状況について

令和7年1月7日

農林水産省鳥インフルエンザ防疫対策本部

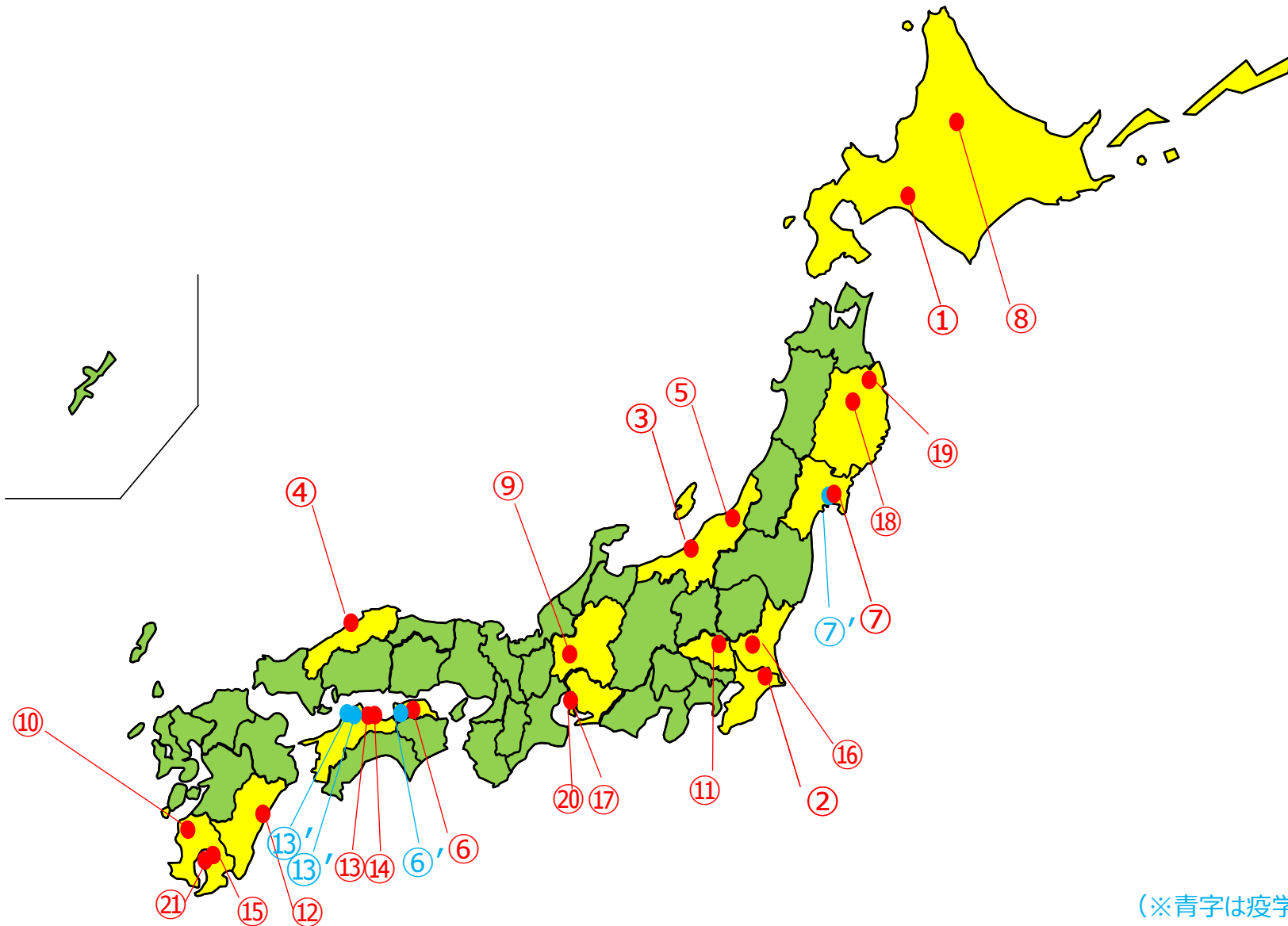
消費・安全局

目 次

1	今シーズンの発生事例・防疫措置の進捗状況	2
2	今シーズンの発生状況	5
3	過去シーズンとの発生状況の比較	6
4	生産現場の対策強化	7
	(参考1) 発生予防・まん延防止対策	8
	(参考2) 江藤農林水産大臣メッセージ (令和6年11月21日・緊急全国会議)	9

1 今シーズンの発生事例・防疫措置の進捗状況 ①

○ 今シーズンは、令和6年10月17日に国内1例目が確認されて以来、
令和7年1月7日9時00分時点で14道県21事例発生し、約330.4万羽が殺処分の対象となっている。



(※青字は疫学関連農場)

1 今シーズンの発生事例・防疫措置の進捗状況 ②

○ 今シーズンは、令和6年10月17日に国内1例目が確認されて以来、
令和7年1月7日9時00分時点で14道県21事例発生し、約330.4万羽が殺処分の対象となっている。

事例数：20事例（防疫措置対象：農場 24施設 約318.7万羽）					農林水産省 対策本部	防疫対応状況			
発生場所			発生日 ※1	飼養羽数 ※2、3		防疫措置（殺処分、消毒等）		搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除
						開始	完了		
①	北海道 1	養鶏場 （北海道厚真町）	令和6年 10月17日	約2.0万羽 （肉用鶏・平飼い）	10月17日	10月17日 10時00分	10月20日 18時00分	11月1日 0時00分	11月11日 0時00分
②	千葉 1	養鶏場 （千葉県香取市）	令和6年 10月23日	約3.7万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	10月23日 （持ち回り）	10月23日 8時00分	10月24日 18時00分	11月5日 0時00分	11月15日 0時00分
③	新潟 1	養鶏場 （新潟県上越市）	令和6年 10月26日	188羽 （採卵鶏・平飼い）	10月26日 （持ち回り）	10月26日 10時00分	10月26日 15時00分	11月7日 0時00分	11月17日 0時00分
④	島根 1	養鶏場 （島根県大田市）	令和6年 10月31日	約40.2万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	10月31日 （持ち回り）	10月31日 4時30分	11月10日 9時15分	11月21日 0時00分	12月2日 0時00分
⑤	新潟 2	養鶏場 （新潟県胎内市）	令和6年 11月6日	約33.7万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月6日 （持ち回り）	11月6日 8時00分	11月12日 17時00分	11月24日 0時00分	12月4日 0時00分
⑥	香川 1	養鶏場 （香川県三豊市）	令和6年 11月7日	約4.3万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月7日 （持ち回り）	11月7日 22時00分	11月12日 15時00分	11月24日 0時00分	12月4日 0時00分
⑥'	香川 1	養鶏場 （香川県観音寺市）		約2.8万羽 （採卵鶏）				-	-
⑦	宮城 1	養鶏場 （宮城県石巻市）	令和6年 11月10日	約12.3万羽 （肉用鶏・平飼い）	11月10日 （持ち回り）	11月10日 11時00分	11月16日 17時00分	11月28日 0時00分	12月8日 0時00分
⑦'	宮城 1	養鶏場 （宮城県石巻市）		約4.8万羽 （肉用鶏）				-	-
⑧	北海道 2	養鶏場 （北海道旭川市）	令和6年 11月12日	約4.4万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月12日 （持ち回り）	11月12日 1時00分	11月16日 13時00分	11月28日 0時00分	12月8日 0時00分
⑨	岐阜 1	養鶏場 （岐阜県本巣市）	令和6年 11月19日	約1.5万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月19日 （持ち回り）	11月19日 8時30分	11月22日 10時20分	12月4日 0時00分	12月14日 0時00分
⑩	鹿児島 1	養鶏場 （鹿児島県出水市）	令和6年 11月20日	約11.3万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月20日 （持ち回り）	11月20日 7時00分	11月25日 12時00分	12月6日 12時00分	12月17日 0時00分
⑪	埼玉 1	家きん農場 （埼玉県行田市）	令和6年 11月25日	2,528羽 （あひる（肉用）・平飼い）	11月25日 （持ち回り）	11月25日 8時00分	11月26日 10時00分	12月8日 0時00分	12月18日 0時00分
⑫	宮崎 1	養鶏場 （宮崎県川南町）	令和6年 12月3日	約2.7万羽 （肉用鶏・平飼い）	12月3日 （持ち回り）	12月3日 7時00分	12月4日 14時00分	12月15日 14時00分	12月26日 0時00分

※1 疑似患畜と確認した日 ※2 飼養方法は主として疫学調査結果から引用。ただし、疫学関連農場については疫学調査を実施していないため飼養方法は記載せず。 ※3 飼養羽数は殺処分が完了するまでは、疑似患畜確認時の羽数を記載。

1 今シーズンの発生事例・防疫措置の進捗状況 ③

○ 今シーズンは、令和6年10月17日に国内1例目が確認されて以来、
令和7年1月7日9時00分時点で14道県21事例発生し、約330.4万羽が殺処分の対象となっている。

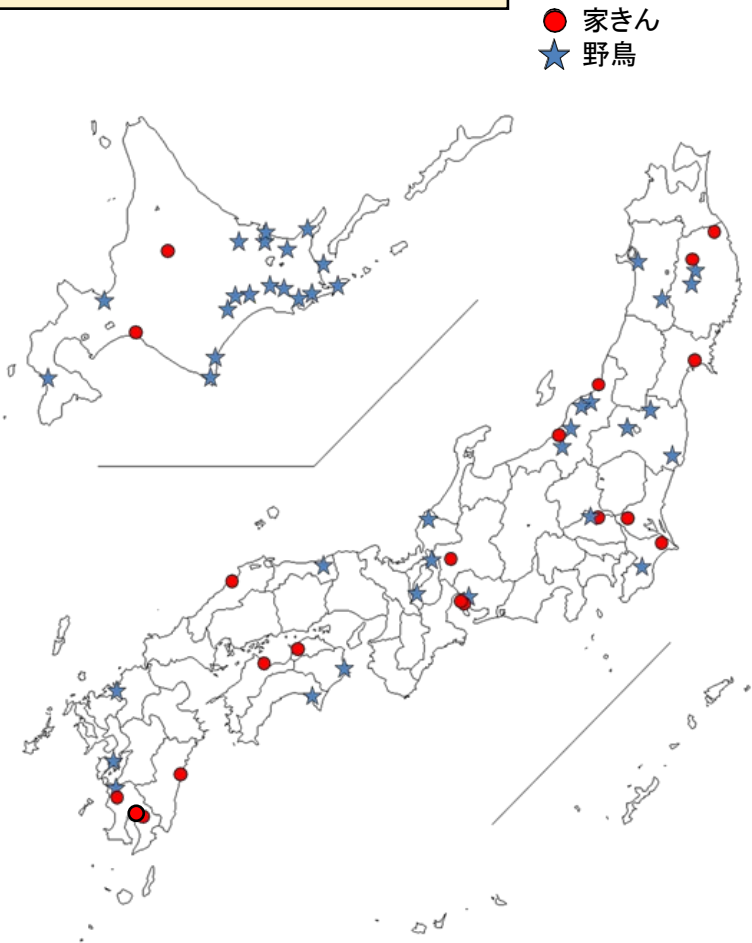
事例数：21事例（防疫措置対象：農場 25施設 約330.4万羽）					農林水産省 対策本部	防疫対応状況			
発生場所			発生日 ※ 1	飼養羽数 ※ 2、3		防疫措置（殺処分、消毒等）		搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除
						開始	完了		
⑬	愛媛 1	養鶏場 （愛媛県西条市）	令和 6 年 12月10日	約15.0万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	12月10日 （持ち回り）	12月10日 8 時00分	12月20日 20時00分	1 月 6 日 6 時00分	-
⑬′	愛媛 1	養鶏場 （愛媛県西条市）		約8.6万羽 （採卵鶏）				1 月 6 日 6 時00分	-
⑬′	愛媛 1	養鶏場 （愛媛県今治市）		20羽 （採卵鶏）				1 月 6 日 6 時00分	-
⑭	愛媛 2	養鶏場 （愛媛県西条市）	令和 6 年 12月19日	約11.0万羽 （採卵鶏・ケージ、平飼い）	12月19日 （持ち回り）	12月19日 9 時00分	12月26日 9時00分	1 月 6 日 6 時00分	-
⑮	鹿児島 2	養鶏場 （鹿児島県霧島市）	令和 6 年 12月20日	約9.0万羽 （肉用鶏・平飼い）	12月20日 （持ち回り）	12月20日 10時00分	12月23日 18時00分	1 月 3 日 12時00分	-
⑯	茨城 1	養鶏場 （茨城県八千代町）	令和 6 年 12月29日	約107.9万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	12月29日 （持ち回り）	12月29日 12時00分	-	-	-
⑰	愛知 1	養鶏場 （愛知県常滑市）	令和 7 年 1 月 2 日	約14.4万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	1 月 2 日 （持ち回り）	1 月 2 日 8時00分	-	-	-
⑱	岩手 1	養鶏場 （岩手県盛岡市）	令和 7 年 1 月 2 日	約12.0万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	1 月 2 日 （持ち回り）	1 月 2 日 9 時00分	1 月 6 日 18時00分	-	-
⑲	岩手 2	養鶏場 （岩手県軽米町）	令和 7 年 1 月 5 日	約5.0万羽 （肉用鶏・平飼い）	1 月 5 日 （持ち回り）	1 月 5 日 9 時00分	-	-	-
⑳	愛知 2	養鶏場 （愛知県常滑市）	令和 7 年 1 月 6 日	約12.0万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	1 月 6 日 （持ち回り）	1 月 6 日 8 時00分	-	-	-
㉑	鹿児島 3	養鶏場 （鹿児島県霧島市）	令和 7 年 1 月 7 日	約12.0万羽 （肉用鶏・平飼い）	1 月 7 日 （持ち回り）	1 月 7 日 9 時00分	-	-	-

※ 1 疑似患畜と確認した日 ※ 2 飼養方法は主として疫学調査結果から引用。ただし、疫学関連農場については疫学調査を実施していないため飼養方法は記載せず。 ※ 3 飼養羽数は殺処分が完了するまでは、疑似患畜確認時の羽数を記載。

2 今シーズンの発生状況 (令和7年1月7日9時00分時点)

- 今シーズンの初動は、家きんでは過去最多の発生となった**令和4年シーズンに匹敵するペース**で発生。
12月・1月はまさに**トップシーズン**であり、**全国どこで起きてもおかしくない状況**。
- 対策の基本は、飼養衛生管理の遵守徹底。

令和6年シーズンの発生状況



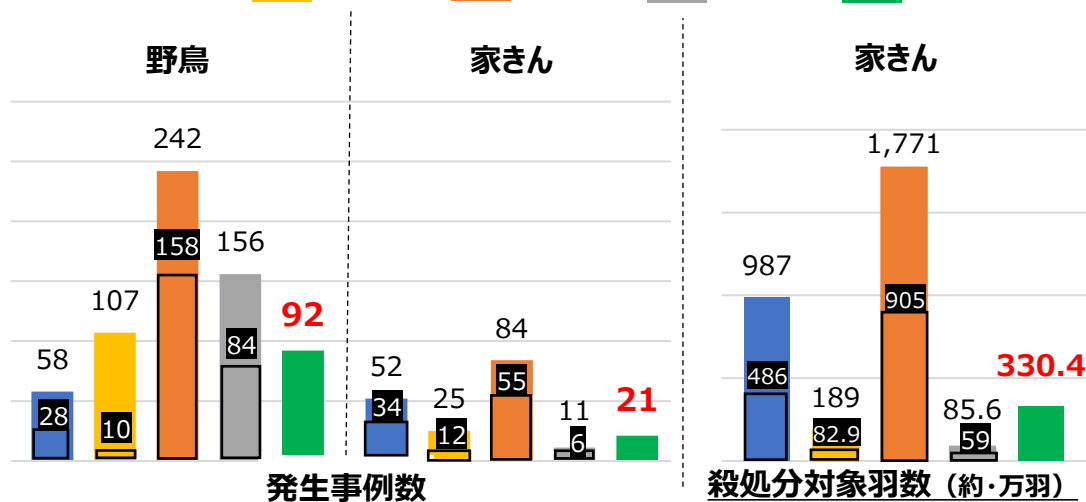
過去シーズンとの比較

(1) 初発、最終確認日

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
野鳥	初発	10月24日	11月8日	9月25日	10月4日	9月30日
	最終確認	3月3日	5月14日	4月19日	4月30日	
家きん	初発	11月5日	11月10日	10月28日	11月25日	10月17日
	最終確認	3月13日	5月14日	4月7日	4月29日	

(2) 発生事例数 (野鳥、家きん)、殺処分対象羽数 (白抜きは同日比)

■ : R2年度 ■ : R3年度 ■ : R4年度 ■ : R5年度 ■ : R6年度

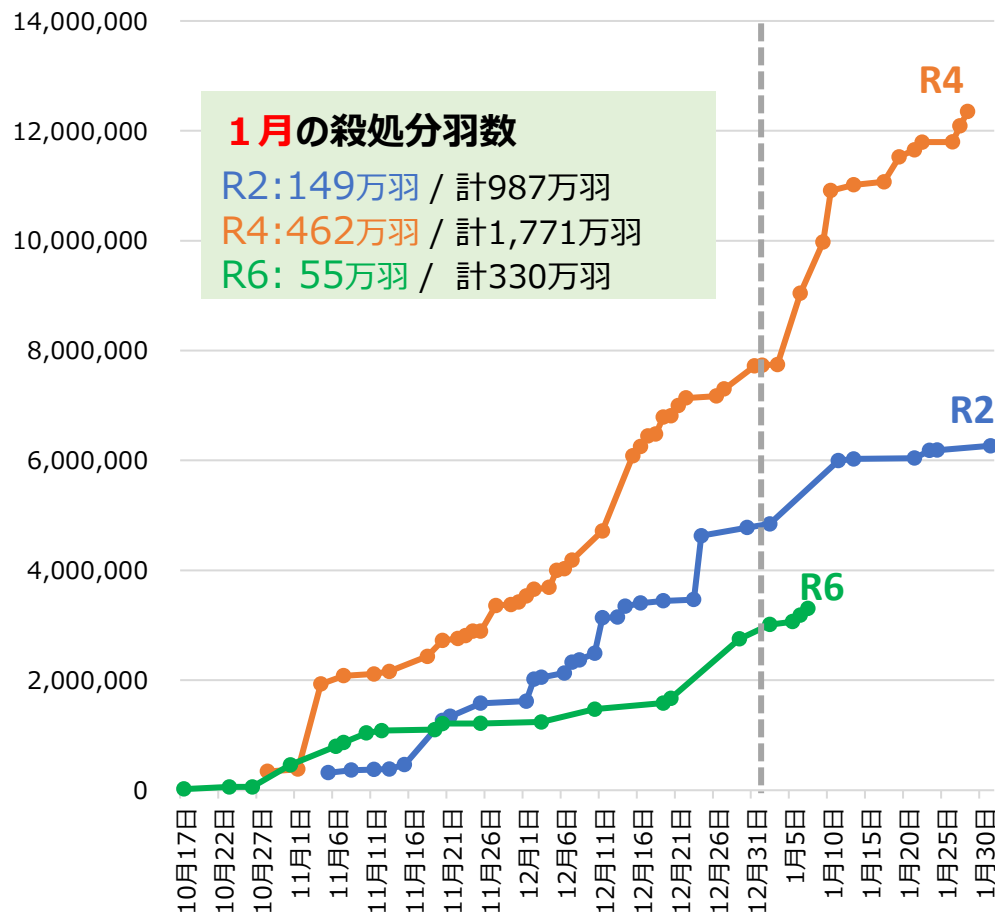


(注) 野鳥における発生事例数は環境省HP参照

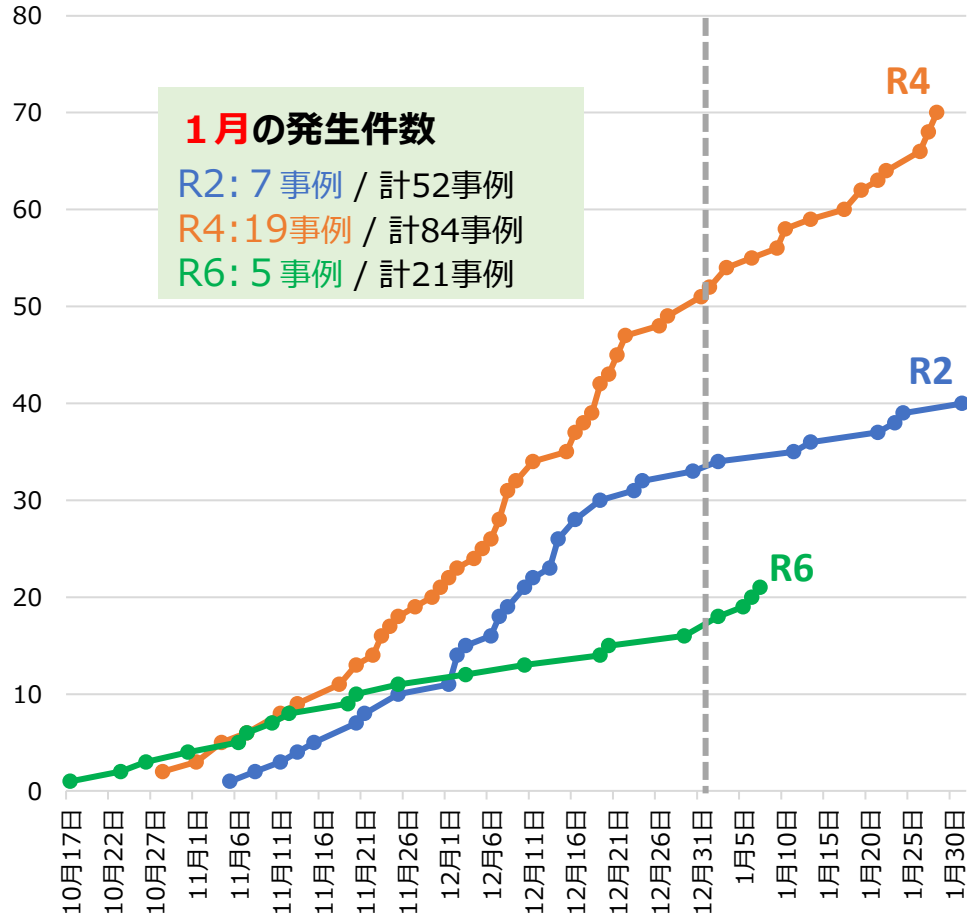
3 過去シーズンとの発生状況の比較 (令和7年1月7日9時00分時点)

- **今シーズンの発生件数** (令和7年1月7日9時00分時点で14道県21事例発生) は、過去最多の発生となった**令和4年シーズン** (同日時点で23道県55事例発生) に比べ、**約3分の1**に抑えられている。
- 他方、この年末年始には、**100万羽を超える大規模農場を含め、発生が相次いだ。**
- **令和4年シーズン**では、累計殺処分数1,771万羽のうち462万羽が1月に殺処分されており、**1月はまさにトップシーズン**。今シーズンも、これ以上発生が広がらないよう、**関係者一丸となった更なる警戒と対策の徹底強化が必要**。

殺処分羽数の推移



発生件数の推移



4 生産現場の対策強化

- 関係者が**危機感を共有し防疫対策の再徹底**を図るため、**昨年11月21日**、江藤農林水産大臣出席の下で**緊急全国会議を開催し、4点に亘る対策強化のポイント**を重点的に打ち出し。
- 全国会議後の発生状況も踏まえつつ、**更なる対策強化を進め、発生予防・まん延防止に万全を期す。**

対策強化の4ポイント

①危機感の共有

- ✓ 「**自分のところに来ても全くおかしくない**」覚悟で体制を構築
- ✓ 関係者間で**危機感を共有し、できる限りの準備が必要**
- ✓ **1月**はこれまでも発生が多い**トップシーズン**。これまで発生がない地域でも引き続き**気を緩めることなく、危機感を共有して対応**

②飼養衛生管理の「隙」を埋める対策

- ✓ 従来の取組に加え、**今シーズンの知見を生かした新たな対策の実施**
(農場外関係者を含めた例外なき消毒徹底、鶏舎への塵埃侵入防止等)
- ✓ 特定症状に限らず、異状が確認された場合の**早期通報の徹底**
- ✓ **死亡羽数がかかなり多くなってからの遅れての通報が多い。通報遅れは地域のまん延に繋がるため、改めて早期通報を徹底**

③大規模農場対策・再発対策

- ✓ 今シーズン発生事例のうち過半が、**過去に発生した農場又は地域における再発**
- ✓ **大規模農場や再発地域は、発生した場合の影響や再発リスクが高く、農場密集地域における注意喚起や再点検が重要**
- ✓ **飼養羽数20万羽以上の農場における飼養衛生管理の再点検**
- ✓ 殺処分羽数の低減に向けた農場の**分割管理**の推進
(発生時に殺処分対象とならない管理の働き掛け 等)
- ✓ 全国会議後もなお**大規模・過去発生農場での発生が見られており、引き続き重点的な指導・監視を実施**

④発生時の速やかな防疫措置

- ✓ 迅速な**初動対応**に向けた**体制の再点検**
- ✓ 十分な**防疫資材や作業員の確保**
- ✓ 発生しても**1例で止めることが基本。地域で続発するような事例については、周辺の農場内外での徹底した消毒など地域ぐるみでのまん延防止対策を推進**

(参考 1) 発生予防・まん延防止対策

- 引き続き、発生時の防疫措置に備えて万全を期することができるよう都道府県等と連携するとともに、**発生予防対策の強化、発生時の速やかな対応、発生農場の家さんの再導入に向けた指導**に取り組んでいるところ。

1 農場や地域一体となった発生予防対策の強化

- **令和5年シーズンの疫学調査、調査研究で得られた知見**を現場での発生予防対策に活用。
 - ・ 第三者の視点による、飼養衛生管理基準の遵守状況の正しい評価・理解
 - ・ 過去に発生のある農場・地域において発生リスクが高くなることを念頭に置いた農場での警戒及び地域的な対策の徹底
 - ・ 地域一体となった農場周辺地域におけるカラス等の野鳥や猫・イタチ等の小動物の誘引防止対策
 - ・ 野鳥における鳥インフルエンザ感染状況の監視と警戒の呼びかけ

2 発生時の速やかな対応

- **関係省庁と連携した迅速な防疫措置**（通行制限・遮断、円滑な消毒ポイントの設置、防疫作業従事者の健康管理、大規模農場での発生に伴い災害派遣要請があった際の自衛隊との連携）
- 農場ごとに行う全羽殺処分の羽数を低減させるため、**農場の分割管理を活用**。マニュアルを基に各農場の実態に即した指導。

3 発生農場の家さんの再導入に向けた指導

- 発生農場が早期に家さんを再導入できるよう、**埋却地・焼却施設の確保や飼養衛生管理の指導**を実施。
 - ・ **飼養衛生管理基準の定期報告のタイミングを活用**し、飼養衛生管理基準の遵守徹底を図るとともに、特に埋却地や焼却施設の事前確保を指導。
 - ・ 大規模農場においては、事前に策定する対応計画について農場自ら防疫措置に協力することを推進。

(参考2) 江藤農林水産大臣メッセージ (令和6年11月21日・緊急全国会議)



全国から500名を超える方々に御参加をいただきまして、誠にありがとうございます。
過去最多の発生令和4年シーズンと匹敵するペースで、今、発生をいたしております。
私の県でも本当に大変な経験をいたしておりますので、
皆様方には更に緊張感を持っていただきたいという趣旨をもって、
この会を開催させていただきました。

それでは、私の方から4点に絞りまして、お話をさせていただきます。

まず、「危機感」を共有せねばなりません。

今シーズンは「自分のところに来ても全くおかしくない」「来るぞ」という覚悟をもって、体制を組んでいただきたいと
思います。自分のところには来ないだろうという楽観的な気持ち、これが一番問題になりますので、来てもいつでも対応
できる体制を組んでいただきたいと。関係者の皆様方で危機感を共有して、できる限りの体制の準備をしていた
だくことをお願いいたします。

第二に、現場の「隙間」を埋める、「隙」を埋めるということでもあります。これまでの発生農場の経験を生かしまして、
飼養衛生管理のレベルをもう一段上げることが肝要であります。万全かと思われる農場でも「ここにも来るかもしれない」と、見逃しがちな「隙」があるということでもあります。そこからウイルスの侵入を許してしまいますので、農場の
「隙」を埋めるよう、御指導のほどよろしくお願いいたします。

第三に、「再点検」です。「自分のところは新しいから、作って間もないから、最近検査したばかりだから大丈夫だろ
う」ということではなくて、今日この機を生かしていただいて、もう一度再点検をお願いしたいと思っています。特に大
規模農場や過去に発生した農場では、発生した場合の影響や発生リスクが高いというふうに考えられますので、もう一度、
よろしくお願いいたします。何度点検をしても、それで十分ということはないというふうに考えていただきたいと思っ
ております。

第四に、残念ながら発生した場合、そこから更に周りに伝播させない、拡げないということが大変肝要であります。現
実は、どんなに完璧な防疫体制を敷いていても、人間のやることでありますし、それに虫や動物、様々な原因が考えら
れますから、完全に防ぐということは不可能だというふうに考えていただくことが、私は適切ではないかと思ってお
ります。そして、発生しても、今申し上げたように、1か所で止める、そこで終了する—その地区ではですね。地域に拡げな
いことが最重要であります。事前の防疫演習、これはしていただいていると思いますが、速やかな殺処分、そして防疫措
置をお願いしたいと思っております。

令和4年シーズンのように鳥インフルエンザが大発生すれば、卵の需給や価格、国民の皆様方の食卓にも大変な影響を
及ぼすことがあります。そして、発生農場におきまして、それから再開するのに大変御苦労することになりますから、
そのあたり緊張感を持っていただいて、「防疫対策」、何度も申し上げましたけれども、とにかく「防疫対策」「防疫対
策の徹底」これをお願い申し上げます。

どうぞ皆様方、これからがまさにトップシーズンに入りますから、緊張感を持って御対応いただきますように、
重ねてお願い申し上げます。御参加いただきまして、誠にありがとうございます。